

一体感あふれる南国のフェア **Maker Faire Singapore 2015**

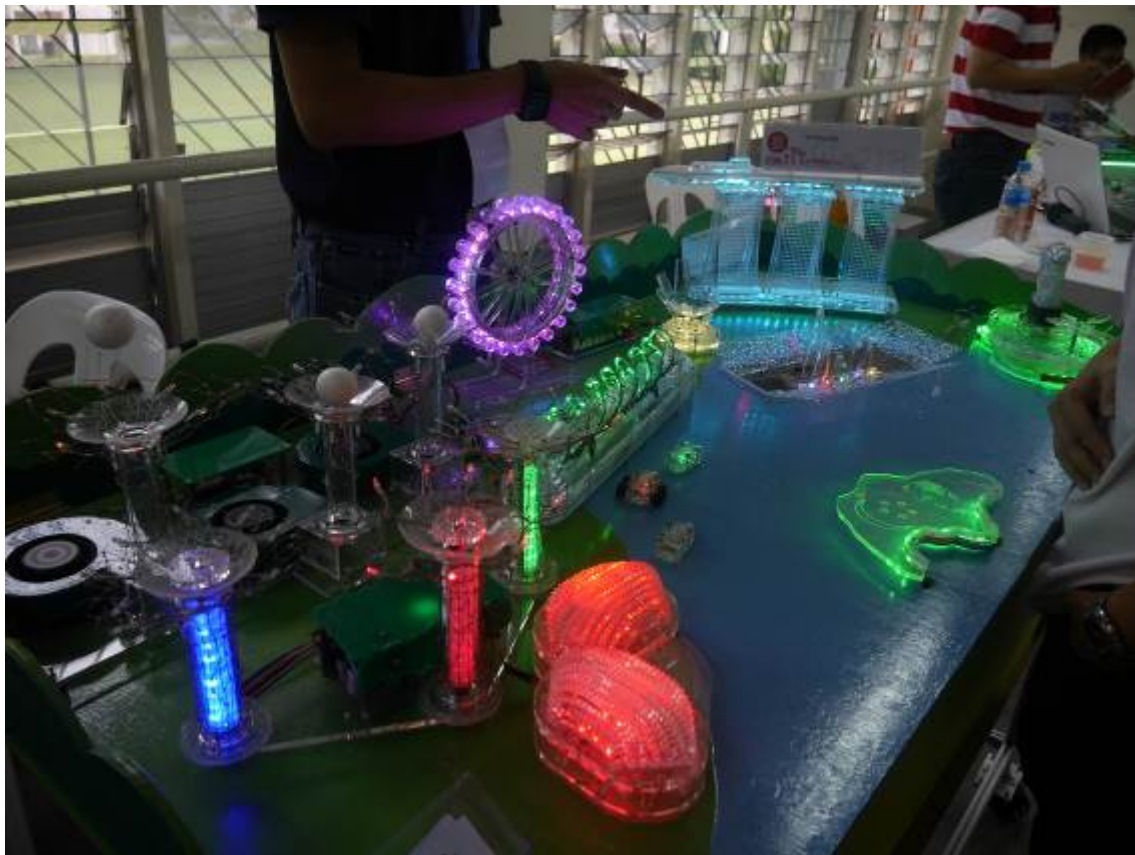
今年からついに **Featured Faire** に昇格。東南アジアのハブであるシンガポールでの **MakerFaire**

高須正和のアジアンハッカー列伝

7/18-19 の 2 日間、シンガポールの東、タンピネスにある廃校の小学校をまるまる使って、**Maker Faire Singapore** が開催された。



キャプション：小学校の校庭に自作の自転車走る。シンガポールに **MakerFaire** がやってきた！



キャプション：マーライオン、マリーナベイサンズ、エスプラナーデ、スターフライヤー、ガーデンバイザベイなど、シンガポールの代表的な建築物を LED ミニチュアにした作品



キャプション：開場となった小学校

■アジアで4番目のメイカーフェア

MakerFaire シンガポールは、2012年にMini Maker Faireとして、主宰するサイエンスセンターシンガポールのイベントスペースで始まった。当時の出展はたった30組。シンガポール国立大の研究者である勝本さんは第1回のフェアに出展していて、当時の様子をブログに書いている。ブログからは多民族・オープンマインドな雰囲気が伝わってくる。

それから4回目、ついにシンガポールのMini MakerFaireはMaker Faireとなり、出展約200組、来場18000人を数えるフェアになった。

Maker Faireは2013年の時点で世界130カ所を越えて行われるようになり、Mini Maker Faireと呼ばれる小規模なフェア（最初はここから始まる）、Mini につかない Feacherd Faire、MakerMedia が直接運営する Flagship Faire の3つのランク分けがされるようになった。

アジアでの Feacherd Faire は、2012年から東京が、2013年から台北が、2014年から深圳が毎年行うようになり、2015年の今年、シンガポールはアジア4番目の Featured Faire となった。今年は他にソウル・香港・台南でも Feacherd Faire が行われる予定で、昨年まで3つだったフェアがいきなり7つに増えたことになる。

■サイエンスセンターが主催、教育が目立つ

僕はいまのところ、アジアの Maker Faire はすべて見てきている。Make の流行そのものは、楽しむための集まりで正解があるわけではないから、主催者・コミュニティの中心がどういう人かで、フェアのカラーが違う。

趣味のものづくりを助けるメディアを提供しているオライリーが主催する東京のフェアは、趣味で作られた出展物が多いし、Maker 向けのビジネスを行っている SeedStudio

が中心になっている深圳の **Maker Faire** はインダストリアルな感じが目立つ。

シンガポールの **Maker Faire** はサイエンスセンターが主催している。サイエンスセンターは、日本で言うお台場の国立科学未来館みたいな展示施設としての機能と、**STEM** 教育の中心地としての機能があり、教育省の配下にある。シンガポールは **OECD** が発表している **PISA** ランキング（15歳の時点で数学、科学、理解度などを計測する世界的なランキング）で常にトップを争っていて、教育熱心な国として定評がある。最近ではより実践的な教育として、理論と実践・実験を組み合わせた体験型の教育、**STEM** 教育に力を入れている。

子供たちが中心になっている出展は他の国のフェアに比べるとはるかに目立つ。



キャプション：小学校からの出展。作品をきちんと売っているのはさすが。

シンガポールの教育は子供だけにやらせるものではなく、親が子供に教えるのも習慣化されていて、教科書は大人も子供も読む。それぞれの出展物について、親が仕組みを把握して子供に楽しみ方を教えている風景はシンガポールならではの。



キャプション：グラフィカルプログラミング言語の Scratch を使っている出展者。子供だけでなく、親が注目しているところがシンガポールらしい。



キャプション：ピタゴラスイッチのような仕組みをみんなで作る

■60 を越えるワークショップ

教育が目立つ **Maker Faire** らしい点として、2 日間で 60 をこえるワークショップが開催されている。半田付けやプログラミングといった情報技術のほか、クラフト系や「おかんアート」のようなものをつくるワークショップも目立つ。



キャプション：絵の具で彩色するワークショップ



00_スチームパンク風の小道具をつくるワークショップ

■もちろん、典型的な **Maker** もいる！

人口の少ないシンガポールとはいえ、生活水準が高く技術力もある国なので、もちろん **Maker** もいる。ハッカースペース、高専、大学からの出展者は、いかにも「**Maker Faire** らしい」ブースを出展している。

実行委員長の **Kirutica** が「この人たちと知り合えたのは最高に幸せ」と賞賛していたのは **Bikes4fun** という自転車を自作するグループだ。2006 年から結成されているエンジニアたちのホビーサークルで、自転車を作ることと、子供たちを含めてそれを楽しむコミュニティを活動方針にしている。



キャプション：様々な形の自転車（ママチャリ）が小学校の校庭に勢揃い

リカンベント、2 台ヨコにつながったもの、ドラム缶を切ってつくったゴンドラを列車のように引っ張る自転車、さらには漕ぐと水を吐き出す自転車型ウォーターポンプなど、様々な形の自転車は、特に子供を大喜びさせていた。

Bikes4fun のような活動はまさに「MakerFaire っぽい」ものだ。シンガポールのフェアが大きくなってきたことによって、ずっと活動してきたグループにまで評判が届いて、いい循環が生まれてきているのを感じる。



キャプション：両輪につけたドリルで進む

また別のグループ、[OneMakerGroup](#)は、フェアの2日間のあいだに、板の両脇に車輪をつけたリヤカーのような構造にドリルを入れて、即席のクルマを作っていた。

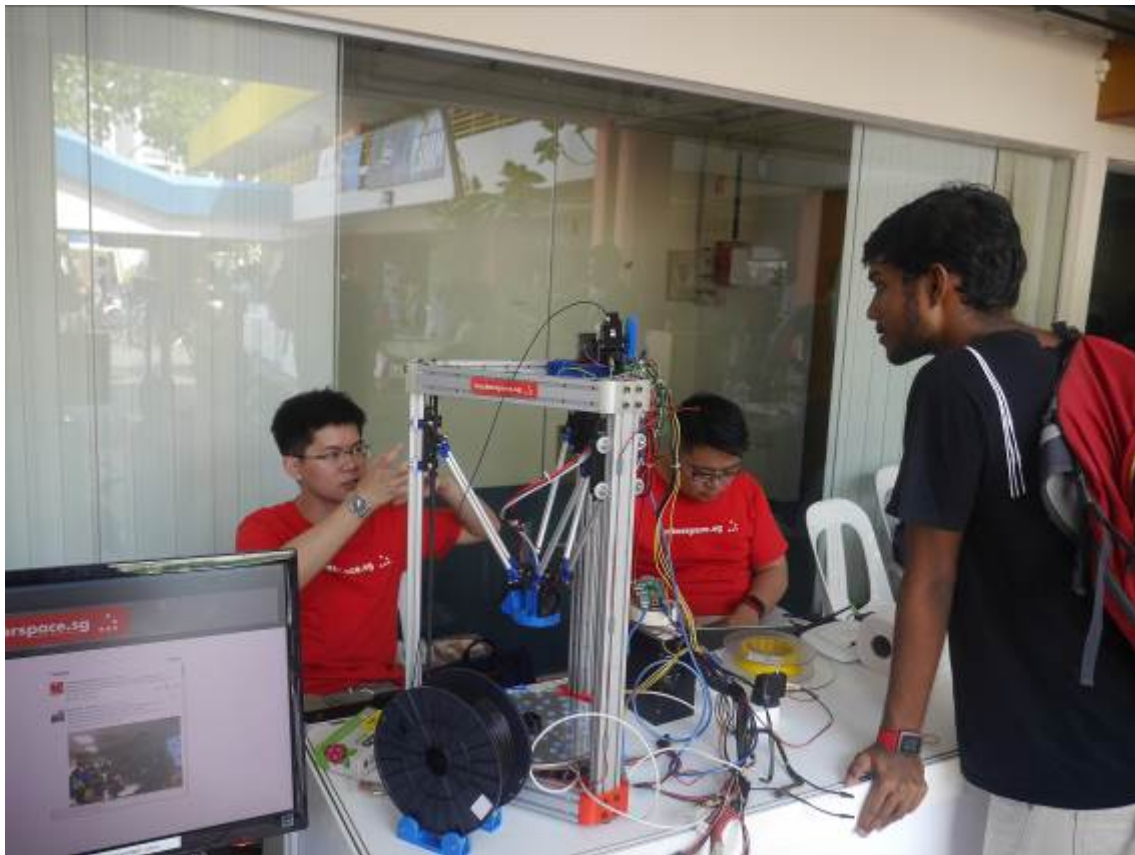


キャプション：古い PC をゲームの筐体に格納してゲーム機にする

こちらのグループは古い PC のリサイクルとして、ゲーム機の筐体に PC を格納してアーケードゲーム機にしてしまう。



キャプション：古いラップトップの筐体が見える



キャプション：ハッカースペースシンガポール

ハッカースペースシンガポールでは、Grove Kit、3D プリンタといったメイカー向けツールを紹介。ビギナーからステップアップしたいメイカーの相談にも乗っていた。



キャプション：同じく HackerSpace SG から、バイオハッカーのグループ



キャプション：シンガポール国立大のブース。水上にも着陸できる小型ドローンを研究している



キャプション：シンガポール高専。ウェアラブルな LED コスプレなど



キャプション：铸造で高温を出すため、ブローでかまどに空気を送り込む

別のグループは野外で火をたいて铸造をしていた。

会場が半野外で、これまでで最も大規模になったことで、これまで以上に祭りとしての祝祭的な雰囲気があふれ、サイエンスセンター単体のイベントだった昨年までから、別のステージに進みつつあるのを感じた。

■シンガポールならではの多国籍ぶり

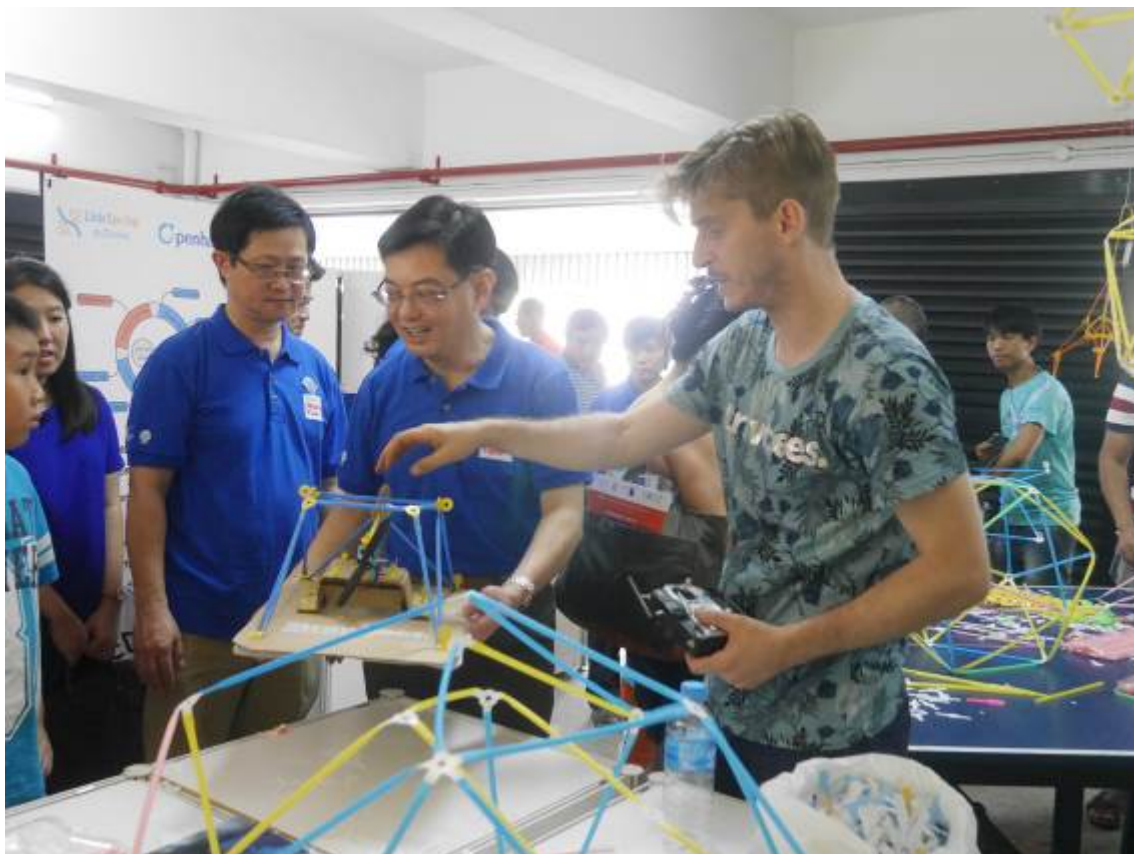
シンガポールは東南アジアのハブ的な位置にあり、大きな空港から各都市に安い LCC が飛んでいる。アジアで国際イベントを行う際にシンガポールが選ばれることは多い。

シンガポールを代表するメイカーのグループとして、前にも紹介したウィリアム・フーイが率いる OneMakerGroup は、Maker Asia としてマレーシア・タイ・ベトナムなど、東南アジアのメイカーのハブになる活動が続けている。

OneMakerGroup と連携関係にある、タイのチェンマイからメイカーグループが来ていた。



キャプション：チェンマイメイカークラブ



キャプション：スウェーデンの Strawbee

スウェーデンの Strawbee もシンガポールへ。リーダーの Erik とは、これで台北・深圳・シンガポールと一緒にになった。Strawbee とは、東京でもその後会うことになる。

■政治家もメイカーも一体となるホスピタリティ

Maker Faire Singapore の実行委員会は、Maker Faire を、国内外の様々な人たちに向けて「Maker Faire とはなんなのか、シンガポールの Maker たちはどういうことをしているのか」を示す機会だと考えている。

官民一体となったホスピタリティは、世界でもなかなか見られないものだった。



キャプション：Strawbeeを体験する Heng Swee Keat 教育大臣

教育大臣の Heng Swee Keat はキーノートスピーチを行うだけでなく、大半のブースを回って様々なプロジェクトを体験。ケンブリッジ大学で経済学の学士、ハーバード大学で社会参加について修士の学位を取得し、ずっと経済関係の部署を担当してきた Heng 大臣は、2011 年から教育省を担当し、メイカームーブメントについても大きく関心を払っている。



キャプション：最大のスポンサーでもある INTEL のブース



キャプション：日本からの参加、V-Sido OS のアストラテック

Strawbee, アストラテックなどの説明は僕が担当したのだが、短い説明だけで要を得て鋭い質問が来る、ハイエンドに近いロボットの技術の話も子供に向けてメカニカルの技術を教える Strawbee についてもある程度バックグラウンド含めて見ているのにびっくりした。



キャプション：Maker Faire 行きと書かれたシャトルバス

この週末は複数のサイエンスイベントが平行して行われ、それぞれの会場を結ぶ無料のシャトルバスが運行していた。



キャプション：最後にケーキが差し入れ

ただでさえ南国のシンガポールの中、半野外の会場で非常に暑い **Maker Faire** だったが、各ブースには水や食事が適宜委員会から配られ、終了直前にはなんとケーキが振る舞われた。これには、出展していた日本人たちも感心していた。

さらに、**Maker Faire** の翌日には、観光バスを貸し切ってシンガポール中の **Maker** スペースをまわり、それぞれのスペースのキーマンから説明を受けるツアー（事前申し込み制、誰でも参加可能）が行われた。

はじめてシンガポールを訪れた人も、この **Maker Faire** ではじめて **Make** の世界に触れたシンガポール人も、「シンガポールの **Make** とはどういう感じか」を体感して、興味ある人と直接つながるいい機会になったと思う。

ツアーの引率をすることで、**Maker Faire** の運営スタッフと、ゲストたちが直接話す機会にもなっていた。



キャプション：Hackerspace シンガポールを訪れ、運営の Luther から説明を受ける

今年のシンガポールの Maker フェアは、昨年比べて 5・6 倍の 15000 人規模の来場者を集め、Mini から Feacherd と言われる大きさになったことにふさわしいフェアとなった。教育に関する関心の高さに支えられている現状から、シンガポールに多いテクノロジーベンチャーたちのネットワークに役立つようになることで、さらに拡大することが予想される。実際に、教育省が管轄する MakerFaire のチームと、ベンチャー企業へのファンドなどを行う IDA(Infocomm Development、日本の総務省や経産省に近い)とは連携を取っている。

来年はさらに拡大するフェアとなることが予想される。